

第5回白山市金沢総合車両所松任本所跡地活用検討委員会 議事概要

日時 令和8年2月12日(木) 午前10時～

場所 松任文化会館ピーノ4階 401 研修室

出欠状況 出席16委員

欠席7委員、オブザーバー1名

(開会) 10:00

次第1. (委員長あいさつ)

本日は足元の悪い中、多くの方にお集まりいただき感謝申し上げます。本委員会は昨年4月に発足し、本日で5回目の開催となる。おおむね1年半にわたりご指導を賜り、委員の皆様や市民の方々から多くのご意見をいただいたことに、深く感謝申し上げます。

今回ご検討している車両跡地は約14ヘクタール、東京ドーム3個分に相当する広大な敷地である。この場所にどのような機能を導入するかは、県民・市民にとって千載一遇の好機ではないかと考えている。

具体的な都市機能については、これまでも議論してきたように、居住機能や商業・業務機能に加え、文化・情報発信や交流の場、さらには防災や複合的な機能も必要になると考えている。ターゲットとしては国内外からの来街者に加え、市民や地域住民、特に学生や若者の視点を重視したいと考えている。若者は学んだり遊んだり交流したりできる場所が少ないという声が多く、そうした思いを一つでも実現できればと願っている。

また、多世代に対応する視点も重要である。若者や子育て世代など、さまざまな世代が利用しやすい環境づくりを意識したいと思う。この空間が日常生活の場として安心して過ごせる場であると同時に、非日常的でワクワクするようなにぎわいの場にもなることが望ましく、その両面のバランスやメリハリをつけることが大切だと考える。

白山市にはジオパークや鉄道跡地など各地域固有の歴史や文化が残っており、それぞれの良さを生かした「白山市らしさ」をこの計画に盛り込んでいきたいと思う。

今回はこれまでに提案された機能を集約し、おおむね3つのゾーンに分けて、それぞれの整備イメージが分かるように整理した。本日の委員会は5回目で、取りまとめの場となる。皆様から忌憚のないご意見やご要望などをいただければ幸いである。

(前回委員会までの振り返り) (説明：事務局)

(本日の検討フローの説明後、第4回の審議会でもいただいたご意見に対する対応内容について説明)

次第 2. (協議事項)

・土地利用ビジョンの答申案について (説明：事務局)

(委員からの意見聴取、質疑応答)

委員 説明の中で「白山市がこの土地を全部買い取るのは難しい」という趣旨の話が出ていたが、資料の中にそういった記載はあったか。

また、関連する事項として、16 ページの「事業主体」について質問がある。将来の事業主体について、現在選択肢として複数示されているが、現実的に考えると、「③自治体」という選択肢については、実現は難しいのではないかと思う。実現が難しい状況であっても、あえて選択肢として示す必要があるのか。

委員長 事業メニューとして選択肢を広く示しているが、それぞれに対して優劣をつけてはいない。説明不足もあったと思われるので、メリット・デメリットを含めて簡単に説明してもらいたい。

事務局 まず、市が全ての用地を買うわけではないということについては、第 3 回の委員会で説明しており、16 ページ下部の記載で「用地買収については現段階では未定であるが、一部買収となることが考えられます」と記載している。

ただし、どの事業手法で進めるかはまだ決定されていない。このビジョンは J R 西日本に跡地利用についての提言をするものであり、事業手法は将来の土地利用者が検討することになる。「③自治体」は自治体だけが事業を行うようにも見受けられるが、上部の表で示す「将来の土地所有者」として、J R 西日本だけ、J R 西日本と民間、J R 西日本と自治体という区分所有のケースを例として挙げている。白山市がすべて買収するものではなく、J R 西日本と一部市が事業を行う部分について、市が買収することを想定したパターンである。

あくまで「こういうメニューがある」という示し方であり、決定ではない。どの事業手法の場合にどのようなメリット・デメリットが考えられるかを示したもので、このビジョンとしてどれかをおすすめするものではない。

①民間と J R 西日本が事業主体となる場合は、自治体の経済負担が少ないというメリットがある。また、民間の開発ノウハウを生かした整備が可能となり、自治体が行うような場合より迅速な意思決定が可能となる。一方、デメリットとしては、実際の需要から離れた整備となる可能性がある点、および採算が確保できない土地への進出企業が難しいのではないかという点が考えられる。

②官民連携の場合、メリットとしては、自治体の経済負担を低減しながら自治体の意向に合致した整備が可能であり、官民連携による役割分担ができるということである。デメリットとしては、自治体が公募条件を策定するノウハウが必要である点、官民の役割分担によって民間にメリットが少なくなる可能性がある点が考えられる。

③ J R 西日本と自治体が部分所有、区分所有するケースの場合は、自治体が購入す

る部分については自治体の意向に合致した整備が可能であり、計画的なまちづくりができるというメリットがある。一方、自治体の経済負担が大きくなる点、自治体職員のマンパワーや関連ノウハウが求められる点がデメリットとして考えられる。自治体が行う場合の課題としては、公費負担が多額となる可能性があるところが挙げられる。また、駅南の既存施設との機能分担が必要という点も課題になってくる。

委員 16 ページの表で、上の表と下の表では、事業主体が対応していないように見える。下の表の③はオール自治体によるもののように見えるが、いかがか。

事務局 事業主体という言葉になると、J R西日本の部分が見えなくなっている側面があるが、上の表の中で、将来の土地所有者と事業主体のところを結ぶ線がある。J R西日本も民間で、民間ディベロッパーも民間であるので、①と②はどちらも民間という考え方も成り立つかと思う。②ではJ R西日本と民間があるが、民間が所有しつつ市の意向を反映する中で、官民連携ということもあり得るのではないかと考えられる。③は公共だけであるとか、③だけが官民連携になるわけではない。様々なパターンが考えられ中で、表の線で読み解けるのではないかと考えているが、誤解を招かず伝わりやすい表現方法となるよう工夫したい。

委員 資料を拝見する中で、これまで委員会で出された意見を総合的に非常によく整理していただけていると感じる。子育て、交流、創造、歩けるまち、健康、環境、防災といった主要課題が網羅的に記載されているし、住環境とにぎわい創出という対立概念を両立させていくことを前提に空間概念が形成されているところ、また 7 つの機能についても、ニーズ視点で委員の方々の意見をもとに現状を分析して整理されているところが非常によいと思う。個人的には、歩けるまちづくりや駅直結、駅南北の周辺街区との一体化という概念を視点として外さないようにしっかりと位置づけておかないと、局所的な開発に終始してしまう可能性があるという点を大切なポイントとして評価している。

一方で、懸念事項として思うことを付け加えさせていただきたい。まず、挙げられている項目の中で、公共施設や行政が所管する事業メニューの比率が非常に多いのではないかと思う。従来から説明があるとおり、市が土地を取得し事業主体となることには限界がある中で、事業費や維持管理費が膨らむという可能性があり、結果的に実現に結びつかないのではないかという懸念を感じている。

また、民間の事業開発にあたるホテルや商業施設、交流施設といった部分が、表現としてインパクトが弱く、この状態で、民間事業者に魅力が伝わり、民間投資の可能性が見出されていくのかという点に懸念を感じる。千載一遇の好立地という話がある中で、土地利用度がさらに高まるような部分や目玉の位置づけが現状では少し弱いのではとの印象を持った。

ジオパークについては、白山市固有の財産の一つであり、年々着々と進めていかなければならないテーマであると考えている。これをスケジュール感の見えない再開発と

リンクさせることで、ジオパーク事業の停滞を招かない配慮が必要と考える。一方で、ジオパークを核に据え J R 西日本に早期の事業化を促していくという意気込みが感じられるのであれば、それもまた一つの方法かと思う。

最後に、様々な課題や委員会が出た意見、そこから生まれた要素がかなり反映された内容になっていると思う一方で、足りないものは事業化までの期間イメージが湧かないということ。J R 西日本所有の土地であり、事業化の時期を見通すことが容易ではないことは理解しているが、保留期間が長期化することは市にとって大きなダメージとなることをしっかりと伝えていく必要があると考える。

そこで重たい腰を上げていく材料として、背中を押していく意気込みをここに伝えることはできないのか、あるいは具体的には事業化の段階的の整備も含めて、一括で全部を考えるのではなく、ここから取りかかっているところといたった投げかけができるような考え方ができないか。段階整備やフェーズ戦略といったことも含めてアイデアを出していく、J R 西日本にはお願いや要望ベースになろうかと思うが、そういった内容も網羅されていくと効果が上がるのではないかと思った。

事務局 駅南北の一体化については、総合計画あるいは都市計画マスタープランにも位置づけられる中、駅南北の一体的な発展ということを目標に掲げており、そのような方針を進めていく予定である。

次に、公共施設が多いのではというご指摘については、施設の規模というものが非常に大きな問題であると考えている。どのような施設・機能を導入すべきか、またどのくらいの規模にすべきなのか、しっかりと検討した上で、事業に着手していく必要があると考えている。

また、商業施設のインパクトが弱いというご指摘につきましては、事業計画がある程度具体的になってきた段階で、民間事業者に対して、ここは商売になりうる場所であるということもしっかりと発信していく必要があると思っている。

最後に、事業のスケジュールと速度の問題については、段階的に進めていくという方法も当然考えられる。答申をいただいたものを J R 西日本に提言した段階が、市にとってのキックオフになると捉えており、そこから具体的な協力、協議が始まっていくと考えている。委員ご指摘の通り、塩漬けになってしまう状態は、市にとって決して良い状態ではないと認識しているので、課題をしっかりと解決しながら、着実に進めていきたいと考えている。

委員 そのように配慮して進めてもらえたらと思う。今回はビジョンの段階であり、民間開発はその後計画、実施と段階的に進んでいくものだと思う。かつ、J R 西日本の土地であり、この段階でこうしなさいと一方的に指示できない状況は理解できる。市長からビジョンを提言し、それがキックオフの時期になるということは理解した。来月に提言するとのことであるが、なるべく早くキックオフすることで、スケジュール感をしっかりと持って進めてもらえればと思う。

机上の空論にならないよう、停滞しないようにということが重要。いかにJR西日本に訴えかけていくかというところでの温度感が大切だと思う。市長が提言に行かれると思うが、結果的には市長の熱意や話し方といったことにも影響されてしまうのかもしれない。あるいは、提言書の中にできる限りそうした思いを込めて、市長が話せるようにアシストしていく内容になっていけばいいのではないかなと思う。後から、ちょっとぬるいなというふうに思われたいようなものを出していただけたらと思う。

委員長 市の方も、やるときは腹をくくる必要がある。議会と市が車の両輪となって、これぐらいやろうという気持ちで進める必要がある。また、国や県の支援抜きにはできないところも多い。官官連携、官民連携など、様々なことを想定した上で、事業化に向けて進めていただければと思う。

委員 14 ページのBの白山いきいきゾーンについて、横軸1番のにぎわい交流機能の中にある「金沢駅10分圏内の立地」という文言は、この地域の魅力と特色を非常によく表す文言だと思う。その中で、ビジネス観光利用の各種機能を有するホテルと記載されているが、白山市だけではなく石川県全体、あるいは金沢都市圏として考えた場合、金沢市では様々な学会やコンベンションが開かれており、国際会議場ができるという話も聞いている。それでも施設が充実しているとはいえ十分ではない。そうしたサテライト会場を設ける余地がまだまだあるのではないかな。石川県、富山県、福井県の都市間競争も深刻化している中で、金沢市だけではなく周辺市町が一体となって盛り上げていく環境も作るべきではないかな。

そこで、このホテルという文言の前後に「会議場」という言葉を入れてもいいのではないかなと思う。市内には様々な施設があり、維持管理費用が相当かかっていると聞いている。建て替えの際のコストを削減するためにも、官民連携等で建設できれば、将来的に白山市の負担も少なく、また日常的にも使える施設ができるのではないかなと思う。そうした視点の言葉を付け加えることは可能か。

委員長 金沢駅10分圏内という立地を考えると、会議場付きのホテルというケースもあれば、会議場単独というケースもあるなど、様々なパターンが考えられると思う。駅南側の方にもそういった施設があるが、事務局からの説明をお願いしたい。

事務局 必要施設に関する意見で、資料8ページに記載のアンケートでもコンベンションホールについてのご意見を多くいただいたところである。このあたりは、どれぐらいの需要があるのか、また整備した後あまり使われないと無駄になってしまう懸念がある。JR西日本に提言させていただいて、JR西日本も市場として必要かどうかという判断をされると思う。その中で、具体的な手法も含めて、用途を決めていきたいと考えている。委員の皆様方からのご意見として、ここに「会議場」という言葉を追記したほうがよいということであれば、追記させていただきたい。

委員 私の提案は、金沢市と張り合うという意味ではなく、あくまでもサテライト会場と

して、地域の方も使える小さな会議室程度のものがあってもいいのではないかと
いう提案である。文言として盛り込むことについては、あくまでも J R 西日本の判断が
重要であるため、記載すること自体は差し支えないのではないかと。

また、白山市の財政が将来的にきつい状況に陥らないよう、こうした施設を白山市
の予算だけで作るのではなく、民間のお金を活用して作ってはどうかと提案した。委
員の皆様の了解を得た上で進めていただければと思う。

委員長 民間が会議場などの施設を作るかどうかという点については、稼働率がどうなる
かという問題がある。民間がこうした施設を作れるかどうかというのは、これからの
検討課題だと思われる。ご指摘の通り魅力的な要素として考えられることから、記載
を加えることも検討する価値があるのではないかと。

事務局 14 ページに、現在は「金沢駅 10 分圏内の立地を活かしたビジネス・観光利用の各
種機能を有するホテル」と記載されており、ホテルの中にコンベンション機能がある
ことも想定した中で記載としている。これを、独立したコンベンションホールや、
商業施設の中に会議場の機能を有したものと解釈できるよう、ホテルの後ろに「など」
という言葉を入れておけば、独立した機能の建物とも、複合的な建物の中にある
コンベンションホール機能とも、様々な解釈ができるようになるかと思う。

委員長 確かに外出しした方がインパクトが強いと思われる。修正案として「ビジネス、ス
ポーツ、コンベンション、観光利用の各種機能を有するホテル等」と記載すること
でいかかがか。

委員 14 ページで、C ゾーンに「健康増進の機能」に関する導入機能が記載されていない
のが少し寂しく感じられる。他のゾーンでは運動施設などが記載されているのに対
して、こちらには具体的な施設が示されないことが気になる。

事務局 C ゾーンに関しては、基本的には居住のゾーニングということになる。すぐ近くの
A や B のゾーンに健康施設などの機能を位置づけており、そういったところを利用し
ていただければと考える。

委員 これまでに議論があったかもしれないが、15 ページに ABC のゾーン分けの図につ
いて、このような配置に至った明確な理由があれば、説明願いたい。

事務局 ABC のゾーン分けについて 13 ページで説明があり、跡地周辺の土地利用の状況を
踏まえた中で配置している。A ゾーンについては、西の方に区画整理などで造成され
た低層の住宅が広がっている。そうした方々や周辺環境との調和という中で、公園や
地元の方や来街者が交流できるようなジオパーク、鉄道施設といったような施設が
考えられるゾーニングである。B ゾーンは、駅に一番近い部分であり、例えば高層の
ホテル、商業複合施設といったものが、最も考えられる場所と考えている。C ゾーン
については、東側の八ツ矢新町にマンションが 2 棟あり、こうした中高層マンション
や戸建て住宅が考えられ、ゾーニングを設定した。

委員長 13 ページと 15 ページでは、ゾーンの大きさが異なっているところがある。総合的

な観点から踏まえると13ページの方がゾーニングの考え方に近いと思われるが、このあたりについていかがか。

事務局 15ページは、あくまで仮の道路線形で区切って色分けしたものである。道路の北側までCゾーンを広げた表現に変更したい。

委員長 最後の会議であるので、委員のみなさんから一言ずついただきたい。

委員 これまでの会議でJR跡地の活用事例では22年かかったという報告もあった。20年後は自分も生きていくかわからないが、今後このような委員会を開く際には、もっと若い方の意見を聴くべきと思う。できるだけ早く実現に向けて動いてもらえたらと思う。

委員 子どもたちの屋外遊び場について、今すぐにでも整備してほしいが、ビジョンの実現には時間を要すると思われる。3月のお別れ遠足で、白山市内では、会場選びの際、雨が降ったらどこでご飯を食べるのかという問題がつかまとう。跡地とは別でも、屋外の子どもの遊び場を早めに整備してもらいたい。

ビジョンの内容は、私たちの考えを上手くまとめられたと思うが、将来、若い人たちの重荷にならないよう、民間の利益が上がるようなものを作っていただくと、後々、若い人たちが暮らしやすい白山市になると思う。

委員 何回かの委員会でよいビジョンにまとめられていると思う。実際にこれに即したものにできればいいと思うが、これから特に老人の方もたくさん増えてくるので、子どもたちなどと色々にぎわいができるような場が一日でも早く実現できるとよいと思う。

委員 5回の委員会で色々な意見が出て、最終的にまとまったビジョンができてよかったと思う。せっかく皆さんで意見を出しあって作ったビジョンであり、JR西日本の金沢支社の方にはなるべく妥協せず速やかにこのビジョンが実現できるよう動いていただければと思う。みんなが出した重いビジョンだと思っているので、ぜひ進めていただくようよろしくお願いいたします。

委員 私は松任で生まれて松任で育って、松任の町に住んでいる人間であり、委員会に参加させていただきありがたかった。ただ、これを本当に実現するのはなかなか大変だと思われるが、極力早くできるようにやってもらいたい。

委員 5回の委員会でうまくビジョンがまとまっており感心させていただいた。白山市にとって重要な土地が魅力的な形になっていくことを見守りながら、この検討委員会が今の素晴らしい景観の原点だったと言われる日が来るよう願っている。

委員 言葉が過ぎたところもあったかもしれないが、色々と思い切ってお話しさせていただけたかなと思う。というのも、熱量をどうやって伝えるかが、結果的に早期事業化や、よいものを作ることに繋がっていくと思う。このビジョンをJR西日本に提言しても、もっと上司の方は紙を見るだけになるかもしれない。そこにどうやって思いを乗せていくかが大事で、場合によっては、ビジョンだから細部をなるべく省いて総

合的な概要で作っていくという考え方もあるかもしれない。

一般論かもしれないが、細部から熱意を伝えるというところもある。例えば「歩ける街づくりをしましょう」と言ったら、白山市はウォーキングを推進しているというように具体的なアイデアを載せるくらいの勢いであるとか、地元として取り組もうとしている、この場所を使ってどのように進めていこうとしているのかということ、どこをいかに伝えるかということ、もっと大事にさせていただけたらよいと思う。方法としては、市長の発言の中に表現されてもよいと思うので、ビジョン案以上のものを伝えていけるようにさせていただけたらと願っている。

委員 近隣に住む人間として非常に気になるところで前回の報告にあった地下に汚染物質が検出されたという点。近隣の町内の井戸水を調査するという話があったが、その後どうなったのか進捗を伺いたい。

事務局 町内会を通じて周辺の井戸の設置状況について照会させていただき、現在把握できたところである。来週2月16日、18日に保健所が水質調査を行う予定であり、結果についてはまた様々な手段を通じて報告してまいりたい。現在調査が進行中という現状について報告させていただく。

委員 先ほどから皆さんの意見を聞いていて、できるだけ早く進めていただきたいと思う。様々な課題があると思うが、国会議員や県議会議員、国や県も活用する形で早めに進めてもらいたい。

先ほども子どもたちの遊戯施設についての話があった。エンゼルランド福井では、県外からバスに乗ってそこへ遊びに行く子どもたち多い状況である。公園であれば予算もそこまでかからず、屋根があるような施設を比較的早く作ることができると思うので、できるだけ早く実現に向けて動いてもらいたい。市だけではこんな大きなプロジェクトを進めるのは難しいと思われるので、やはり国や県と協力する形で取り組んでいただければ、より早く進んでいくのではと思う。

委員 JR西日本がどれだけ私たちの思いを汲んでもらえるのか見えない中で、熱意ある議論を重ねられた。委員長をはじめ、委員の方々にも感謝申し上げたい。参加できて楽しかった。

先ほど、土壌汚染について白山市民、跡地に隣接する方々、今後とても心配した日々を過ごされるのではないかなと思う。その中で、現在どれだけの町内会の方が関心を持っているのかも心配なところである。環境問題と跡地活用の進捗問題、そして今の土壌汚染の話もあった通り、近隣の方々の心配を取り除く意味で、市主導で近隣の方々へ、説明や不安の解消に努めていただけたらと思う。市民や住民が主役であることを大切にしながら、進めていただきたいと思う。

委員 歩けるまちやにぎわいといったようなキーワードがビジョンに反映できていると思う。また、ゾーニングでは、エリアを区分して、それぞれの考え方にに基づき共存を図ることができたのではと思う。

土地利用のコンセプトにある鉄道車両工場のレガシーを継承しつつジオパークなどを活用、基本方針の①「ハレの場」にある旧操車場の歴史継承に基づいた活用、白山めぐりあいゾーンにある鉄道遺産といった、白山市ならではの特徴も集めて、他地域との差別化を図る考え方は大切だと思う。この点については実行に向けてしっかりと進めていただければと考えている。

近年、自然災害が頻発しており、新たな施設を作る際には防災機能が充実していることが重要で、全てのゾーンに防災機能を持たせているという点も大変大切な視点だと思う。

J R 西日本に提言された内容等についても情報共有を図ってもらいたい。

委員 私が考えていることは大体皆さんが言ってくれたと思う。先ほど提言した時がキックオフだというご指摘があったが、提言してからは具体的に何ができるかというところにフェーズが変わっていくのだと思う。ずっと空き地のままだと避けたいので早期に動いてもらいたい。

委員 当分の間は J R 西日本が中心になると思われるが、このビジョンをずっと見守る必要があり、その目線をどこに設定するかが重要。上空ぐらいの目線で見ると、あるいは俯瞰で見て石川県全体を包み込むのか、それとも北陸 3 県全体まで俯瞰で見ると、できることは随分変わってくるし、やらなければいけないことも随分変わってくると思う。私は俯瞰で見るべきだなと思っていて、イメージで営業するべきところはしっかりと営業してほしいし、白山市としてはこんなビジョンを持っているんだということを伝えていってもらいたい。

中央都市圏という金沢市を中心とした都市圏ビジョンがあるわけで、その中でも白山市の思いをしっかりと伝え、協力してもらえれば他の自治体や市町があれば協力してもらえばいいと思う。金沢市が持ちきれない部分について、この部分は白山市が担いますというのではなく、中央都市圏のみんなで担いましょうといった話の持ってくるべき。そのためには、県の協力も必要。国会議員にも働きかけ、国土交通省など観光分野なども含めて、様々な関係機関からの協力を得なければいけない。

そうした協力を得るために、もっともっとアクションを起こし、白山市のビジョンとして内輪で終わらせるのではなく、外部に発信するというアクションをお願いしたい。長期間、塩漬けになるのは最悪なイメージだと思うので、早期の実現を目指して積極的に取り組んでいただきたい。

委員 これまでのご支援ありがとうございました。J R 西日本に対しては、スケジュール感も含めて田村市長の熱い思いを伝えていければと思う。

また、民間活力の活用に加えて、官官連携として国や県にも支援いただきながら、より緊密に連携を深めていきたいと思う。ありがとうございました。

委員 私は新参者ですが、委員の皆様におかれましては、第 1 回から第 5 回まで非常に長期間にわたって、皆様が持たれている関係性を生かしながら、非常に貴重なご意見

をいただきましてどうもありがとうございました。

委員会自体は本日で終了となるが、これからもぜひ応援団という形になっていただき、しっかりと見守っていただきたい。

この広大な土地については、駅から非常に近いスペースである。JRあるいは地方鉄道の駅周辺であっても、駅から歩いて行ける素敵な場所というのは意外にない。松任も、もともと車文化の地域であるということもあり、歩いて1、2km先まで行こうという発想がなかなか出にくいところがある。

ぜひこちらの土地が今後、地域を代表する、歩いて行ける素敵なまちになることを願っている。私も関わりながらしっかりと進めていきたいと思うし、皆様からいただいた「早く早く」というご意見もたくさんあったので、微力ながら、早期実現に向けて進めていきたいと思う。

委員長 5回目の委員会ということで、本当にたくさんの意見をいただき、おかげさまで土地利用ビジョンがまとまった。

3つのゾーンがあるが、全体としては、にぎわいや多世代交流といったことが重要である。交流や防災はすべてのゾーンに位置づけがある。その中で、にぎわい交流機能を広めていき、日常と非日常のバランスが取れ、メリハリができてくれればすごくよいと思う。

このビジョンについては、今後、市やJRが主体となって進められることとなる。せつかくのこのようなビジョンがあるので、本当に一日も早い具体化と実現を目指して、スピード感を持って進めていく必要がある。そのためにはやはり国や県の支援が不可欠で、民間の活力というのをちゃんと活用していかなければならない。

次第3.（今後の予定について）（説明：事務局）

- ・2月12日：跡地検討委員会でビジョン案について承認
- ・2月20日：委員長および副委員長から市長への答申予定
- ・2月24日：市議会でビジョンについての説明と意見聴取
- ・3月下旬：JR西日本金沢支社長に市長が土地利用ビジョンの提言を行う予定
ご提案があった地元説明会に関しては、開催に向け準備を進めたい。

（閉会）

（終了） 11：50